

会津は米どころ コシヒカリ・ひとめぼれの特A産地!!

両沼地方営農情報 第1号

平成26年4月15日

発行：JA会津みどり営農部・各総合支店

福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2112）

”

金山普及所（電話0241-54-2801）

放射性セシウム吸収抑制対策 塩化カリを春の耕起前に施用しましょう。

24、25年産のケイ酸カリから、26年産は塩化カリ20kg/10a（カリ成分量12kg/10a）に変更になりました。※昭和村は、昨年秋にケイ酸カリを施用済みです。

※よくある質問

〔質問A〕堆肥を施用しており、塩化カリを基準どおりに施用すると過剰になってしまう。

〔回答A〕堆肥のカリ成分、施用量を考慮して、加減してください。

〔質問B〕塩化カリの米の品質、食味への影響は。

〔回答B〕試験研究成果では、影響はありません。

会津の米づくり環境保全対策 稲わらを焼却するのは止めましょう。



稲わら焼却はダメ・ダメ
米づくりの情熱を燃やそう!!❤



稲わらは貴重な有機資源です。燃やさずに、水田にすき込むなど有効活用しましょう。稲わらのすき込みは、土壌を柔らかくし、地力を増やす効果があります。

1 気象情報（仙台管区气象台発表「東北地方1か月予報」より抜粋）

<4月12日から5月11日までの天候見通し>

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

2 育苗期間の温度管理

「良い苗」とは・・・

- | | | |
|--------------------|---|-----------------------|
| ①病気にかかっていないこと | → | 種子消毒、塩水選、適切な薬剤施用、温度管理 |
| ②苗丈や葉齢の揃いが良いこと | → | 十分な浸種と催芽・出芽管理 |
| ③苗質が良い(ずっしりしている)こと | → | 適正な温度管理と水管理 |

下の表1を参考に、夜間の低温（10℃以下）や昼間の高温（30℃以上）にならないよう温度管理に注意しましょう。昨年は4月下旬から5月上旬まで低温が続いたのち、5月中旬から一転して気温が上がったため、ピシウム属菌による苗立枯病（ムレ苗）が多く発生しました。今年も平年並または低い気温の予報が出ていますので、表2を参考に苗立枯病の薬剤防除を実施するほか、育苗期間の温度管理に十分注意しましょう。

また、高温時に発生しやすいもみ枯細菌病は覆土後に使用できる薬剤がないため、温度管理に特に注意しましょう。



写真1 苗立枯病(ピシウム属菌)



写真2 もみ枯細菌病



表1 育苗期間の温度管理

ステージ	温度管理	注意点
催芽時 (芽出)	28℃	30℃以上の高温には絶対にしない！(←もみ枯細菌病対策) 催芽はハトムネ状態まで！
播種時～ 出芽期	28℃ (2昼夜程度)	30℃以上の高温には絶対にしない！(←もみ枯細菌病対策) 芽の長さ5mm～10mmを目安に、伸ばしすぎないようにする。
緑化期	昼 20～25℃ 夜 15℃	午前中にかん水する。播種時に苗立枯病防除をしていない場合はこの時期に実施。
硬化期	昼 20℃ 夜 10～15℃	朝方たっぷりかん水し、できるだけ夕方のかん水しない(まめなかん水は徒長のもと)。



表2 苗立枯病に登録のある薬剤(例)

農薬名	適用病害虫名 使用目的	使用時期	使用方法	使用回数
ダコニール 1000	苗立枯病 (リゾープス菌)	は種時から緑化期 (但し、は種14日 後まで)	育苗箱1箱あたり500～1000倍 液0.5Lまたは、1000～2000倍 液1Lを土壌かん注する。	2回 以内
タチガレエ ースM液剤	苗立枯病 (フザリウム菌) (ピシウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の発根及 び活着促進	は種時または 発芽後	育苗箱1箱あたり500～1000倍 液0.5Lを土壌かん注する。	1回
		は種時	育苗箱1箱あたり1000倍液1L を土壌かん注する。	

※農薬を使用する際は、必ずラベルをよく読んで、使用基準を守りましょう。

不明な点は最寄りのJA支店または普及所までお問い合わせください。